

令和5年度 教育事業（指導者等養成研修事業）

法人ボランティア自主企画

「自然を五感で抱きしめよう！！～魅力の町、大洲に全員集合！！～」

1 事業概要

大学生を中心とした法人ボランティアが、小学校4～6年生を対象にした事業を企画・運営した。この事業の目的である「秋の自然を五感で感じさせる」ために、野外炊飯やときが森散策、ハーバリウム作りなどを行った。参加者は普段の生活では気付かない、秋の自然を五感で感じる事ができていた。また、法人ボランティアは事業の企画・運営から、子供たちへの支援や言葉掛け等をどのようにすれば良いのかを真剣に考える機会となった。



2 事業の目的（ねらい）

子供たちが自然の中に入り、五感を通して自然の魅力を再発見し、自然の中で得た感情や興味が言葉だけでなく、写真撮影やハーバリウム作りなどを通して自己表現をする。また、法人ボランティアが自主的に企画・運営を行うことで、ボランティア活動に取り組む意欲や実践力を高めたり、法人ボランティア同士の交流を深めたりする。

3 企画のポイント

法人ボランティア内から中心運営メンバーを募集し、そのメンバーがそれぞれのプログラムを担当した。「自然を五感で感じさせる」という目的を達成するためのプログラムを担当者が中心となって考えて提案し、その他のメンバーで意見交換をすることで、よりよいプログラムを参加者に提供することができた。

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 4 主 催 | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家 |
| 5 期 日 | 令和5年11月25日（土）～11月26日（日） |
| 6 場 所 | 国立大洲青少年交流の家 |
| 7 対 象 | 小学校4～6年生、法人ボランティア |
| 8 参加人数 | 23名（小学生15名 大学生7名 社会人1名） |
| 9 参加費 | 2,700円 |
| 10 日 程 | |

【1日目】

- | | |
|-------|-------------------|
| 9:00 | 受付 |
| 9:30 | 開会式・オリエンテーション |
| 10:00 | アイスブレイク |
| 11:00 | 野外炊飯 |
| 14:00 | 自然活動（※雨天時：室内ボルダー） |
| 17:00 | 夕べのつどい |
| 18:00 | 夕食・自由時間 |
| 19:00 | キャンドルサービス |
| 20:30 | 入浴・自由時間 |
| 21:30 | 就寝準備 |

【2日目】

- | | |
|-------|---------|
| 6:30 | 起床・健康観察 |
| 7:00 | 朝のつどい |
| 7:30 | 朝食 |
| 8:00 | 退所準備・清掃 |
| 9:00 | 思い出作品作り |
| 11:00 | 思い出発表会 |
| 11:45 | 閉会式 |
| 12:00 | 解散 |

11 活動内容

【1日目】

2日間のプログラムの運営は全て法人ボランティアが行った。アイスブレイクでは、参加者の緊張をほぐし、参加者同士がコミュニケーションを取れる内容を行った。野外炊飯では、担当者が注意事項等を分かりやすく説明し、法人ボランティア全員で参加者の安全を見守りながら調理を行った。自然体験活動では、各班に分かれてときが森を散策し、ときが森の自然をカメラに収めた。法人ボランティアが参加者の気付きを促すような発言を行うことで、参加者は自然の良さや美しさを感じることができていた。キャンドルサービスでは、厳粛な式とレクリエーションを行うことで、参加者同士の絆を深めることができた。

【2日目】

思い出作品作りでは、落ち葉や松ぼっくりなどを拾い、秋の自然を使ったハーバリウム作りを行った。参加者同士が協力したり、アドバイスをしたりしながら作成する姿が見られた。また、出来上がった作品を鑑賞し合うことで、お互いの良さや相違点を伝え合うことができた。保護者にも見ていただくことで、参加者は大満足の様子だった。



12 参加者の声

○事業後アンケート結果（参加者）

＊満足：93.3％ ＊やや満足：6.7％ ＊やや不満：0％ ＊不満：0％

○自由記述欄（抜粋）

【参加者】

- ・とても楽しい2日間でした。友達もたくさんできた。（参加者）
- ・いろいろな自然とふれあうことができた。（参加者）
- ・子供の楽しそうな様子を見ることができ、最高の2日間となった。（法人ボランティア）
- ・事業の運営や子供たちとの接し方を工夫し、とても楽しく過ごすことができた。（法人ボランティア）

13 事業の成果

法人ボランティアが悩みながらも自分たちの力で企画・運営をしたことで達成感を味わうことができていた。この事業の目的である「秋の自然を五感で感じさせる」を達成するために企画したプログラムは非常に効果的で、参加者は楽しみながら自然を五感で感じていた。

この事業を通して、法人ボランティアは様々な面で大きく成長した。また、これまで関わることがなかった法人ボランティア間の仲も深まり、とても有意義な企画となった。

14 事業の課題

法人ボランティアにとって有意義な企画ではあったが、準備等の負担は大きかった。次年度は中心運営メンバーの募集を早めに行い、余裕を持って企画・運営を行えるようにしたい。また、各プログラムの細かい運営について協議する時間を確保することができなかった。今年度の事前実地調査は2回行ったが、来年度は3回実施することでより細かな打合せができるようにしたい。

（担当：企画指導専門職 岡本 和也）